

## 令和4年度森林環境譲与税の用途に関する事項の公表

事業区分	事業名	事業総額（円）			事業内容
		(A)+(B)	(A)うち森林環境譲与税（円）	(B)うち他の財源（円）	
木材利用・普及啓発関係	ハーベストの丘東屋設置工事	2,332,000	458,700	1,873,300	国産材を使用した東屋を日除け施設として設置
木材利用・普及啓発関係	フォレストガーデン農小屋改修工事	1,628,000	443,300	1,184,700	既存の農具小屋を管理スペースに改修 内装材に国産材を使用
木材利用・普及啓発関係	フォレストガーデン指定管理業務	11,957,000	2,600,000	9,357,000	当施設（農林業体験施設）を活用し、木育体験等を実施するにあたり、里山保全及び利用者の安全確保のための枝打ち・間伐を指定管理者にて実施
木材利用・普及啓発関係	南部丘陵緑地保全木製看板設置工事	5,119,400	5,119,400	0	南部丘陵の持つ緑地の価値や魅力、保全の必要性等を広く発信するために、緑地保全木製看板を設置
木材利用・普及啓発関係	南区役所1階フロア柱申請書記載カウンター化工事	1,870,000	1,870,000	0	南区役所1階の2本の柱に国産材を利用し、申請書等の記載用カウンターを設置する工事を実施
木材利用・普及啓発関係	中学校給食改革事業	4,936,250	4,936,250	0	中学校給食の実施に向けた生徒用ロッカーの設置
木材利用・普及啓発関係	中学校給食改革事業	423,280	423,280	0	中学校給食の実施に向けた配膳台の購入
基金積立	堺市はなみどり基金積立	71,391,559	71,385,070	6,489	市の施設の新築・改築時における木造化・内装木質化等の木材利用に要する経費の財源として積立

【令和4年度末時点 基金残高】 240,030,051円

## □ 事業内容

### ハーベストの丘東屋設置工事

- 堺市南区にある堺・緑のミュージアム「ハーベストの丘」の村のエリアに国産材を使用した東屋を日除け施設として設置した。

【事業費】 2,332,000円（うち譲与税458,700円）

（譲与税は、材料費及び木工事に係る部分に充当）

【実績】 木材使用量約1.80m<sup>3</sup>（兵庫県丹波市産材・杉）



## □ 取組の背景

- 「ハーベストの丘」の村のエリアのポート池周辺には日除け施設等がないことから、施設利用者の方が気軽に利用できる東屋の設置の要望があった。

## □ 工夫・留意した点

- 使用する木材に保存剤を含侵させ、腐れ・シロアリなどの劣化を遅らせ木材の耐久性を向上させる仕様とした。
- 周囲の建物とのバランスを考え、同系色とした。

## □ 取組の効果

- 施設利用者の方の休憩や日除け場所として役立っている。

## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## □ 事業内容

### フォレストガーデン農小屋改修工事

- 堺市南区にあるフォレストガーデンの農具小屋の2室を1室に集約し、内装材に国産材を使用し、管理スペースとして使用する改修工事を行った。

【事業費】1,628,000円（うち譲与税443,300円）  
（譲与税は、木質化材料費及び木工事に係る部分に充当）

【実績】木材使用量約1.04㎡（大阪府和泉市産材・杉）

## □ 取組の背景

- 開園当初より管理棟が未整備であったため、指定管理者からも要望が出ていた農具小屋を有効活用し、現地に管理スペースを確保した。

## □ 工夫・留意した点

- 内装材に地域産材を使用して木目を活かしたぬくもりのある空間に仕上げた。
- 狭い空間を有効利用するため、天井をなくし、内側に断熱材を張ることで天井高を確保する工夫を行った。

## □ 取組の効果

- 指定管理者の作業、管理スペースとして役立っている。
- 菜園利用者の緊急保護部屋としての機能を兼ねている。



## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## □ 事業内容

### フォレストガーデン指定管理業務

- ・ フォレストガーデンの指定管理業務のうち、里山保全等にかかる樹木管理費用に森林環境譲与税を活用した。

【事業費】 11,957,000円（うち譲与税2,600,000円）

【実績】 樹木管理数量 幹周100cm以下369本  
幹周100cm以上39本

### 木育体験（竹チップ作り）



### 木育体験（竹炭作り）



## □ 取組の背景

- ・ 堺市南区にあるフォレストガーデンを活用し、木育体験等を実施するにあたり、里山保全及び利用者の安全確保のために枝打ち・伐木等を指定管理者にて実施した。

## □ 工夫・留意した点

- ・ 木育体験等の実施に向けて、園内の通行等に支障となる樹木を対象とし、指定管理者の業務期間の5年間で計画的に枝打ち、伐木等を行っている。

## □ 取組の効果

- ・ 施設内の里山の保全及び遊歩道等の安全確保による木育の推進

## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## □ 事業内容

### 南部丘陵緑地保全木製看板設置工事

- 南部丘陵の持つ緑地の価値や魅力、保全の必要性等を広く発信するために、緑地保全木製看板を設置した。

【事業費】5,119,400円（全額譲与税充当）

【実績】木材使用量約0.12m<sup>3</sup>（滋賀県産材・杉）



## □ 取組の背景

- 森林環境譲与税を活用した新たな啓発活動等を実施することで、市内外に緑地保全の必要性を積極的に周知・PRし、市の緑地保全の取組等への参加、協力を促すことを目的に、木製看板の設置を行った。

## □ 工夫・留意した点

- 看板の支柱に国産杉を使用し、木目を活かした温かみのある看板に仕上げた。

## □ 取組の効果

- 堺自然ふれあいの森における、環境教育プログラムや里山保全ボランティア養成講座への参加の増加
- 堺市における、特別緑地保全地区や保全緑地等の緑地保全の取組への理解の醸成
- 堺市はなみどり基金における、寄付の増加

## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## □ 事業内容

### 南区役所1階フロア柱申請書記載カウンター化工事

- 南区役所1階の2本の柱を国産木材を利用し、申請書等の記載用カウンターとして利用可能な状態にするもの。

【事業費】1,870,000円（全額譲与税充当）

【実績】木材使用量0.48m<sup>3</sup>（岡山県産材・檜）

## □ 取組の背景

- あふれるみどりを活用した南区ブランドの確立のため自然や木を市民の方に感じてもらえる区役所としていく必要がある。
- スマート区役所の実現に向け、誰一人取り残されることのない「やさしい区役所」をめざし、庁舎内レイアウト等を見直す必要がある。



## □ 工夫・留意した点

- 庁舎スペースを有効に活用できるようにするため、施設の柱と一体化したカウンターとした。
- 来庁者の危険物とならないように、曲線的にデザインした。

## □ 取組の効果

- 自然の木を活用した記載カウンターを来庁者に利用していただけるだけでなく、フロア内に木の香りがすることで、「あふれるみどり」を感じていただける区役所にすることができた。
- 既存の記載台がフロアの見通しを阻害していたが改善され、フロアの奥の窓口等への視認性が向上し、来庁者が庁舎をより快適に利用いただけるようになった。

## ◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## 事業内容

### 中学校給食の実施に向けた生徒用ロッカーの設置

- 生徒が安全に配膳するために通学用カバン等の収納棚を設置

【事業費】4,936,250円（全額譲与税充当）

【実績】木材使用量約0.70m<sup>3</sup>（大阪府産材・檜ほか）

### 中学校給食の実施に向けた配膳台の購入

- 給食配膳時に食缶や食器カゴを載せるための移動台を購入

【事業費】423,280円（全額譲与税充当）

【実績】木材使用量約0.12m<sup>3</sup>（大阪府産材・檜ほか）

## 取組の背景

- 令和7年度から全ての市立中学校にて全員喫食制給食を開始するために、各中学校の教室環境を整える必要がある。
- 順次、給食配膳に必要な備品を整えるに当たり、木製品を採用した。

## 工夫・留意した点

- スチール製の本体に木製天板を使用することで、軽量性と耐久性を同時に確保し、教職員等が容易に移動させやすいものとした。
- 木製天板の木口の角に丸みをつけることで、生徒等が製品の角に衝突して怪我することを防止した。
- 生徒用ロッカーは、6人用（3列×2段）と12人用（6列×2段）の2種類を組み合わせることで、1クラス最大42人分の通学カバンなどを収納できるようにした。
- 生徒用ロッカーは、年度によって学級数の変動や使用教室の変更が生じた場合、製品の組合せを変更したり、製品を移設することが可能なため、柔軟に教室環境を整えることができる。
- 配膳台は、小学校用の製品（天板の高さ60cm）より10cm高いものを選定し、中学生の身長でも配膳しやすいようにした。

## 取組の効果

- 製品天板に木材を活用することで、重量物の落下等による製品の歪みや凹みを防止することができる。
- 生徒用ロッカーや配膳台に木材を活用することで、学習机や椅子との調和性が向上し、教室全体で木の温もりを感じられる。

## 基礎データ

①令和4年度譲与額：87,236千円	②私有林人工林面積（※1）：76ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：826,161人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



生徒用ロッカー



配膳台